



「神学研修志望」枠で入学して

玉木 圭子 (片倉教会伝道師)

2017年4月 学部3年次編入 → 志望変更

→ 2019年3月 学部卒業 → 2019年4月 大学院へ進学

→ 2021年3月 大学院(前期課程)修了 → 伝道師として奉仕



神学を学びつつ主を仰ぎつつ

平野 修 (橋本教会教会員)

2019年4月 学部3年次編入 → 2021年3月 学部卒業 → 信徒として奉仕



神学研修志望で学んで

川合 重貞 (橋本教会教会員)

2019年4月 学部3年次編入 → 2021年3月 学部卒業 → 信徒として奉仕

・なぜ私は「神学研修志望」枠で入学したのか

私はひとりの教会員として教会生活を続ける中で、聖書や説教についてもっと深く学べたらという願いを持つようになっていました。これからの人生をもっと教会に仕えて生きたいとも思っていました。けれども、献身して伝道者になるということはとても無理だと思い、東京神学大学への入学は諦めていました。それは、家族の事情を抱えていること、また自分はふさわしい者ではないと思えたからです。それで、信徒のままでも学ぶ道が開かれないうかど願っていたそのとき、2017年度募集に「神学研修志望」という枠が設けられたと知ったのです。年齢的にも60歳を数年越えており、今しかない!という切迫感にも似た思いに背中を押されて学部3年生に編入学させて戴きました。

・実際に入学してみた

入学してみるとそれは思っていた以上に充実した生活でした。何よりも共に学ぶ仲間が与えられ、どんな質問にも答えてくださる先生方がおられました。神学研修志望と言っても、他の学生と全く同等の扱いを受けます。学内礼拝、クラスの祈禱会にも加えられ、共に祈ることが出来、学年の垣根を越えて多くの先輩や後輩との交わりにも入れていただきました。

・なぜ伝道献身志望に変更したのか

入学して半年後に前期のレポートの課題が沢山出され、そのひとつが「祈り」についての文章を読むことでした。その中で、牧師とは祈りに専念する人だと教えられ、はっとするものがありました。また、他の授業の課題では、ペトロの召命の御言葉を黙想する文章を読み、湖の沖を指さす主イエス様が示されました。それ以前に、一緒に入学した仲間たちの「献身」に励まされていました。様々な事情を持ちつつ入学したのは私だけではありませんでした。改めて「召命」が迫ってきました。困難はあっても、力はなくとも、祈りの人になるようにと呼ばれているのなら一歩先に進んでみよう、沖へ漕ぎ出そう、そう思ったのです。

学部4年生からコース変更し、大学院前期課程での学び、夏期伝道実習等を経て、卒業後に現在の教会へと遣わされました。このような者をも神様は用いて下さることに今はただ感謝するばかりです。

・皆様へ

あなたがもし、かつての私のように、“学びたい、でも…”と迷っておられたら、また、“伝道者への召しがあるけれど、でも…”とためらっておられたら、困難を数えて諦めてしまう前に真剣に祈って一歩踏み出してみませんか。どうか良き道が備えられますように。

2021年の就任式にて。



主はいつも呼びかけておられる。わたしたちすべての人間に。

わたしの教会生活は就職と全く同時の4月1日(日)にスタートし、その後は教会生活とサラリーマン生活とが並行していました。献身の考えも無くはなかったのですが、捨てられない自分の壁に阻まれてあと一歩を踏み出せないまま過ごしていました。

このまま働けなくなるまでサラリーマン生活を続けるのだらうと思っていたある日、牧師の教会員への呼びかけの中で献身枠以外での東京神学大学への入学の道が有ることを知りました。それが「神学研修志望枠」でした。素晴らしい情報であり、ハードルは大きく下がったのですが、その一歩を踏み出すにも迷いがありました。そして、サラリーマン生活から神学校生活への転換を決めたのは教会の諮問役員会開催当日の朝で、まさにぎりぎりのタイミングでした。

選抜試験の勉強も大変でしたが、編入学後の46年ぶりの授業での歴史と語学は特に大変で、退学を考えるほど悩みました。しかし、共に学ぶ友との交わりの中で、祈ってもらい、励まし合い、助け合うことによって、挫折せずに何とか学びを続けることが出来ました。召命共同体である神学大学の教員を含めた兄弟姉妹との交わりはここでしか得られないもので、他でどんなにたくさん勉強しても得ることの出来ない、貴重な生きた学びでした。

4年生に進学する際に献身枠へ変更できる機会がありましたが、結局わたしは変更せずに学部4年で卒業しました。2年間の学びで知り得たことは、神学の広さと深さであり、今まで自分が学んで来たことはキリスト教の視点から見たら半分抜け落ちていたことなどです。正にコペルニクス的転回がわたしの中で起こりました。そして、学び終えてわたしが一番変わったと思うのは、聖書の読み方です。それまでは教会で使用している聖書以外の聖書に全く興味がありませんでしたが、ヘブライ語やギリシャ語の原典を知り、日本語でも岩波訳や聖書協会共同訳などが有ることを知りました。また、辞書、コンコーダンスなどで調べることによって、聖書の御言葉に聞く場合に、その言葉自体の持っている豊かさをより深く味わえるようになったことです。

教会ではCSの説教、分級、祈禱会の奨励などで奉仕する機会がありますが、神学校で学んだことが役立っています。同じ奉仕をする場合でも、確信が持て、分からないことは調べる事が出来るなど、奉仕する幅や主体性が増したと思っています。

卒業して1年経った今、確かに東京神学大学は卒業しているのですが、今なお神学校生活の延長線上を歩み続けている心持ちなのです。神学を通して極め尽くせない主のお姿がよりはっきりと見えるようになることは、そのこと自体喜びですし、雑然としていた自分の信仰が整えられる喜びでもあります。心の中から溢れて来るこの喜びに突き動かされての歩みは神の大きさの前には無に等しいものでしょう。そうではあっても、なお神学を学びつつ主を仰ぎつつ、聖書の御言葉を味わう信仰の日々を歩み続けたいと願うのです。

教会学校で「目隠して障害物避けながらイエス様のところに行くゲーム」をリードする。



2019年4月に神学研修志望枠で編入学させていただきました。信仰歴がちょうど50年となった73歳の時でした。以前から退職後、頃合いを見て東京神学大学で学んでみたいが歳が歳のために伝道者になることは出来ないし、資質も足りないと思っていました。このような思いを心に溜めていたちょうどその頃神学研修志望枠があることを知り、神学を基礎から学べるという自分にとって永年の願いが叶うことになりました。背中を押してくれたのは、妻が理解を示してくれたことと、相模原市に住んでいた次女家族の孫の世話のために近くへ引越したことで通学が可能になったことでした。また橋本教会の教会員となっていた私のこの決断を、この教会で牧会されている東京神学大学教師の須田拓牧師が理解され、推薦していただいたこともその要因の一つでした。これらの要因が重なっての決断でしたが、この決断こそ主の導きがあったと信じます。

選抜試験での教授方との面接の時のことです。大住雄一学長から「文系卒でないが学習は大丈夫ですか。」といった趣旨の質問がなされた時、自分は工学系卒だけれど読書好きで、長い信仰生活で自分なりに神学を学んできたというささかの自負があったので「大丈夫です。」と答えました。しかし後から思うとんだ冷や汗ものでした。学び始めてすぐにこの自負は崩れてしまいました。レポートや論文を書き慣れていないハンディがあることに気づきました。神学的な知識や理解力は他の学生と較べても変わらず、年齢による記憶力の低下も手伝い、若い学生に対するハンディは隠しようがありませんでした。しかし、他の学生に負けまいと勉強しました。2年間という短い学生生活でしたが、組織神学、旧・新約聖書の釈義、教理史、ギリシャ語など多彩な分野の基礎的なことが学べました。多くの科目を短期間に学んだため消化不良になったことは否めませんが、種々な分野の先生、書籍名、歴史上の神学者などの知識が与えられ、卒業後の勉強の指針と読むべき書籍などが示されました。授業の合間の殊に昼食時ラウンジでの様々な年齢の先輩や後輩との交わりのなかで、必要な選択科目の相談をしたり楽しい会話を持つことが出来ました。また各地に散ってゆく伝道者の卵と知り合いとなる良き機会を与えられたことも忘れることが出来ない恵みでした。

神学の基礎的な学びは、教会学校説教、聖書研究などの奉仕を務めるときに直接役立っています。少しずつですが聖書の学びが深くなってきているという実感があります。今後の課題は、神学の学びを地域の伝道に活かすことです。またそれが神学研修志望卒業生の私に課せられた責務だと思っています。

献身を志していない方でも神学を学ぼうと思っておられるならば是非とも神学研修志望枠を活用して神学の基礎を学んでみませんか。必ずやその実りは豊かに与えられることと確信しています。

主日礼拝で司会の奉仕をする。

